

Stage Up

ステージ・アップ
通巻 No.196
2014年2月1日
(隔月発行)

ホームページからも
ご覧いただけます!



切り絵シリーズ「川崎にある風景から」⑥
「ヒメリュウキンカ」武蔵小杉 渋川の河畔にて 青木幸夫

誌 上 ギ ャ ラ リ ー

ヒメリュウキンカは漢字で「姫立金花」と書きます。イギリス原産のキンポウゲ科の花で、草丈は5cm～10cm程度、山野の湿った草原や川沿いの林床など湿り気のある場所に自生します。2月末、武蔵小杉の法政二高正門近く、二ヶ領用水から分流している渋川沿いの土手下に咲いていました。光沢のあるしっかりとした花弁をつけて、数週間、たくましく咲き続けていました。

この作品は1枚の黒和紙を切り取り、裏から数色の和紙を貼り付けて表現しています。石垣の色むらは和紙の染めむらをそのまま生かしたものです。

※このシリーズでは、川崎にちなんだテーマ、身近な画題で制作した作者のオリジナル切り絵作品を、6点掲載してきました。

7 6 4 3 2

もくじ

まち・ひと・多面体
シニアのパレット
特集
「映像のまち・かわさき」
施設めぐり
情報ポケット



発行・(公財)川崎市生涯学習財団

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1
TEL 044(733)5560(代) / FAX 044(739)0085

<http://www.kpal.or.jp/>
Eメール: stage-up@kpal.or.jp



当財団は市民の主体的な学びと活動を支援するための諸事業を推進しています。

まち・ひと・多面体

後世に残したい!若者たちに伝えたい!

—シベリア抑留体験者の取組から—

自ら撮った写真を前に語る遠藤尚次さん



第二次世界大戦の終戦後、日本の軍人や市民の中には厳寒の地シベリアに抑留され、過酷な労働を強いられた人が多くいました。20歳のときに陸軍北支派遣軍の一員として当時“北支”と言われていた中国北部に渡り、朝鮮半島で終戦を迎えた遠藤尚次（しょうじ）さんもその一人。「日本に帰すから」と言って船に乗せられ、以来3年半にわたってロシアの抑留地で森林の伐採や碎石作業などに従事させられました。冬期はマイナス30度を超える寒さ、体力の弱っている仲間たちは次々に命を落としました。遠藤さんの足指にも凍傷のあとが残っています。夏期には想像を超えてわき出る蚊の大群にも悩まされたとのこと。

1949年5月ようやく帰国がかなった遠藤さんは、高津区久地にある実家の農業を継ぎ、88歳の今日までかくしゃくとして過ごしています。

シベリアで無念の死を遂げた仲間への思いを絶ちがたかった遠藤さんに厚生労働省か



抑留時代身に付けていた外とう靴など

ら埋葬地調査の依頼があり、これまでに公私あわせて30数回シベリアに行っているそうです。日本青年遺骨収集団の若者や現地のロシア人たちと力を合わせて遺骨の調査・収集にあたってきました。

遠藤さんは地元の市民館や中学校などでも写真展を開いたり、講話をしたりしています。昨年秋にも西高津中学校の文化祭で展示をしました。その事前学習として生徒たちに話をし、当時飲んだ松葉のお茶を生徒と一緒に煮出して飲みました。「戦争に対してあまり関心が無かった」と言っていた生徒から「今、普通に暮らしていることが幸せなんだ」というつぶやきが聞かれました。遠藤さんの思いは生徒の心にしっかりと届いているようです。

■問合せ：遠藤尚次

TEL 044-822-7219



茶毘(だび)に付きれる遺骨



健康で暮らすためのお手伝い

～栄養士みやまえ応援団～

栄養士みやまえ応援団は、2008年に宮前保健福祉センターで行われた宮前区栄養士研修会に参加した方々のグループです。地域の人たちと共に食育の推進を図ることを目的に、2009年4月から活動を始めました。健康な生活のために自分たちが持っている知識を地域のために役立てようと、乳幼児からお年寄りまで幅広い方々を対象に講座や料理教室を開催しています。

一言で『食育』と言っても対象によって様々な知識や情報が必要です。また、栄養に関する考え方や情報は日々変わるので、常に情報のアンテナを伸ばしていないと時代に合った情報を皆さんに提供できないそうです。

昨年11月には川崎北高校で食育の授業が行われました。グループを立ち上げた当初から毎年行っている活動で、今回は1年生10クラスに1人ずつメンバーが入り、グループワークと講義をしました。



食生活についてのグループワークで発表された意見は様々です。昔からよく言われている「腹八分目」「バランスよく食べる」等の他に、お弁当を作ってくれる親へ感謝の言葉も聞かれました。予想外の言葉に「とっても嬉しい」と自身も高校生の子を持つ母親であるメンバーは感激し、授業を終えてから集まった皆さんに報告していました。授業にはヘルスメイト（食生活改善推進員）さん20人も参加して野菜スープを作り、生徒たちが試食しました。

地域の方々にアドバイスをするためには多くの知識が必要となり、そのことが自分たちの学びにつながっていると聞きます。「1人暮らしのお年寄りでも離乳食を食べている赤ちゃんでも年齢を問わず交流できる場を提供していきたい。そこで皆さんにアドバイスできたら…」と語り、目指すべき方向を見据えています。皆さんの健康的な笑顔が素敵でした。

■問合せ：栄養士みやまえ応援団 志賀美知子

TEL 044-865-6828





楽しくいきいきと… ～「腹話術の会★きずな」の取組から～



腹話術を観ていると、自然と笑みがもれてきます。「腹話術の会★きずな」は腹話術を使い、東北の被災地へ行き被災者を励ましています。また、全国の保育園や小学校、図書館、福祉施設、病院、高齢者施設、お祭り、各種イベントなどで幅広く活動も続けています。腹話術を生きがいの一つにして活動されている会員の練習を取材しながら、代表であり指導者でもある城谷護（しろたにまもる）さんにお話を伺いました。

「腹話術の会★きずな」



「腹話術の会★きずな」は、2006年に腹話術の好きな人たちが集まって始まりました。会の代表であり指導者でもある城谷さんは、「好きな人たちが集まっているからこそ、楽しくいきいきと活動することができる。だから楽しくいきいきとを会のモットーにしている」と話します。定期的に発表している「腹話術のつどい」は、今年8回目と定着してきています。「つどいは、腹話術を中心に手品もあり、会員の得意なもので発表する」と声を弾ませながら話します。練習は月1回ですが、城谷さんの豊かな経験を生かし、会員の持ち味を引き出しています。その城谷さんの熱意を感じた会員は、「観てくれる人たちに喜ばせたい、励ましたい」と笑みを浮かべながら話します。

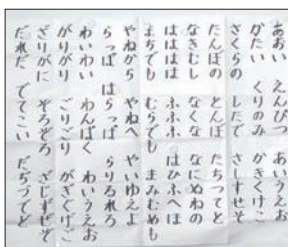
腹話術の会は、全国各地で活動しています。東北の被災地で「一日で一年分笑ったよ」、「長生きして良かった」等の声を聞いて、逆に励まされたといっています。



全国から会員が集まり、活動の輪が広がっている

練習は、川崎市内の公共施設を使い行っています。取材時に茨城県日立市から来た新会員が紹介されていました。会員は、北海道から九州まで1都1道2府12県に広がり、およそ80名になるといいます。会員の中には、「腹話術の会★きずな」を観て会員になったという小学生がいて、「年齢層が10代から70代まで幅広いこともこの会の特徴の一つになっている」とのことです。

練習は、会員の主導で行われています。和やかな雰囲気の中にも、緊張感が漂います。基本練習の一つである群読や準備運動する会員の表情は、真剣そのものです。



地道な活動が認められて

「腹話術の会★きずな」は、これまでの功績が認められ、2007年に神奈川新聞社「**神奈川地域社会事業賞**」を受賞しましたが、城谷さんは、腹話術の担い手が少なくなっていることを心配し、「一人でも多くの腹話術師を育て、腹話術の楽しさを伝えていくことが私の役割です」といいます。また、病院で演じた時の話も聞かせてくれました。

「辛い状況なのに、大きな口を開けて笑う患者さんの様子を見ると逆に励まされ、改めて腹話術の魅力に気づかされた会員もいた」と頷きながら話してくれました。そして、腹話術師にとって**人形は、大切なパートナー**です。「だからこそ、人形に腹話術師の気持ちを注ぐことが観ている人を楽しませ、励ますことに繋がると思う。そのことを伝えながら指導している」といいます。



「**会員の中には、家族の一人として家でも会話している**」と聞き、とても温かく微笑ましい様子が目に浮かんでくるようでした。そこで城谷さんのパートナーであるゴローちゃんについて聞くと、「ゴローちゃんは、ひょうきんもので時々悪い言葉を遣うこともあるが憎めないんだ」と目を細めながら話す城谷さんの表情が、とても印象に残りました。



「日本を元気にさせたい」の強い思いが・・・

「腹話術の会★きずな」は、経験豊かな人たちの集まりです。その経験を腹話術に生かしながら、互いに技能を磨き合う姿に生涯学習の一端を感じます。会員は、「**腹話術で日本を元気にさせていきたい**」と強い思いをもち、練習しています。小学校の授業場面で腹話術を使い、子どもの反応を上手に引き出していました。笑いの絶えない授業は、瞬く間に過ぎていった感じがしました。終了後に子どもたちから拍手喝采と握手攻めにあう光景（シーン）を見てみると、城谷さんの腹話術師育成の夢が、着実に実現してきていることを感じます。

■問合せ：城谷 護 TEL 044-544-3737

特集

撮る・創る・観るの環境に恵まれたまち ～映像のまち・かわさきの取組～



「映像のまち・かわさき」のロゴマーク

映像のまち・かわさき

運動会では、ビデオカメラが林立し、インターネットで動画サイトが脚光を浴びているように、映像は、私たちの生活になくてはならないものになっています。

川崎市には、日本初の映画の単科大学やCM、ドラマ撮影の映像スタジオも多くあります。また、テレビドラマや映画のロケ地としても市内の多くの場所が利用され、「撮る・創る・観る」の映像環境に恵まれています。この環境を生かし、関連団体が連携して魅力ある川崎のまちづくりを進めている「映像のまち・かわさき」の取組を紹介します。

かわさきロケ情報

川崎の近未来的な工場群やオフィス街、住宅街、豊かな自然、川崎市役所本庁舎等の市所管施設などを利用し、「映像のまち・かわさき」では、ロケによる川崎市のイメージアップに取り組んでいます。本誌では、各区で使われた主なロケ地を紹介していますが、詳しくは、「川崎市ロケ情報」で検索することができます。また、ロケ情報は、映画やテレビドラマのロケ誘致だけでなく、市民に川崎市への愛着心を感じてもらえる役割も担っています。

各区の主なロケ地

- ①川崎区・・・川崎市役所本庁舎
- ②幸区・・・川崎市産業振興会館
- ③中原区・・・川崎市国際交流センター
- ④高津区・・・川崎市民プラザ
- ⑤宮前区・・・北部市場
- ⑥多摩区・・・生田緑地ばら苑
- ⑦麻生区・・・黒川青少年野外活動センター

■問合せ: 川崎市民・子ども局市民文化室 TEL 044-200-2433

みやまえ映像コンクール



撮影の様子

「中学生、宮前を知る」をテーマに、宮前区の中学生在が映像を制作し発表しています。中学生は、日本映画大学講師から撮影のレクチャーを受け、自分たちの育ったまちの魅力に気づき新鮮な感性で映像化しています。担当者は、「例年夏休みを使いながら作品を仕上げ、その作品は、自然、エコ、介護、学校行事、古典芸能、地域の祭典、農業と幅広く、どの作品も力作ばかり」といいます。また、この取り組みは、共感する地域住民によって支えられ、市民の「みやまえ映像コンクール」になっています。映像

に関心を持ち活用できる中学生が、増えてほしいと思います。「みやまえ映像コンクール表彰式・発表会」は、平成26年3月15日(土)に宮前区役所で開催されます。

■問合せ: 宮前区役所 地域振興課 TEL 044-856-3132

わが町かわさき映像創作展

川崎市は、市内の私立や公立小、中学校に映像制作「伝えるをつくる」のDVDや教本を配布し、映像指導に役立ててもらえるよう呼びかけています。

また、川崎市教育委員会と川崎市総合教育センターが主催する「わが町かわさき映像創作展」は、今回で31回目となります。応募者も学校や個人、団体と幅広く、担当者は、「映像の良さを知り、生活の中に活用できる力を身につけてほしい」と話します。

「わが町かわさき映像創作展」は、平成26年2月22日(土)13:30から、川崎市総合教育センターで開催されます。

■問合せ: 川崎市民・子ども局市民文化室 TEL 044-200-2433
川崎市総合教育センター情報・視聴覚センター TEL 044-844-3712



教育現場へ映像づくりの支援と「映像のまち・かわさき」フェスティバル

「映像のまち・かわさき」推進フォーラムは、教育現場における映像づくりの支援をしています。市内数校の小学校に映画監督が行き、授業を通して映像制作を支援指導をしています。映像は、子どもたちの身近な生活から探し制作していきます。制作上の基礎知識は、土持幸三映画監督が指導し、脚本をつくるための具体的なアイデアを視覚的に伝える絵コンテや分擔、撮影、編集を経ながら完成していきます。取材した市立東門前小学校5年



絵コンテ指導2

生は、八ヶ岳自然教室の体験の「計画から帰校まで」を編集し、作品は、次に体験する4年生と自分たちの保護者に発表します。絵コンテづくりでは、監督の丁寧な説明と資料提示に、驚きの声を上げていました。監督は、「映像制作を覚えることは大切なこと。そして、計画から完成までに子どもたちが、それぞれの意見を交わして一つの作品に仕上げる過程の重要さに気づき、その経験を、将来生きる力に繋げてほしい。その意味でも大切な学習の一つです」と支援の思いを語ります。

「毎日映画コンクール」は、毎日新聞社とスポーツニッポン新聞社が主催し、川崎市や「映像のまち・かわさき」推進フォーラム等が特別協力しています。その歴史は「カンヌ国際映画祭」より古く、国内では「キネマ旬報ベストテン」に次ぐと言われています。その伝統ある毎日映画コンクールの表彰式は、平成22年の第64回から川崎で開催されています。コンクールは、作品や俳優に限らず、音楽、美術、録音等のスタッフにも賞を贈り、「ドキュメンタリー」、「アニメーション」の部門など、多岐にわたる賞が贈られます。今回は、平成26年2月13日(木)にミュージア川崎シンフォニーホールで開催されます。また、「映像のまち・かわさき」推進フォーラムでは、平成26年2月1日(土)川崎アゼリアにて、「映像のまち・かわさき」フェスティバルが開催され、市内で撮影された映画等のPRや映画音楽のライブ演奏、映像関係のブース等を行う予定です。

■問合せ: 映像のまち・かわさき推進フォーラム TEL 044-223-6550
川崎市民・子ども局市民文化室 TEL 044-200-2433

しんゆり映画祭

KAWASAKIしんゆり映画祭は、1995年に川崎市の「芸術のまち構想」の一環としてスタートしました。「市民(みんな)がつくる映画のお祭り」として、市民スタッフが、企画・運営の中心を担っています。行政が、それをバックアップする新しい形の市民映画祭です。取り組みとして、監督、俳優などによる座

談会やシンポジウム、ミニコンサートがあります。障がいのある人のための副音声ガイド制作や日本語字幕上映、中学生が映画をつくり上映する「ジュニア映画制作ワークショップ」、村祭りを再現する「野外上映会」など多く行なわれ、年齢を超え街ぐるみで楽しんでいます。

しんゆり映画祭は、「見せるから創る映画祭」へ。現在は、魅せる映画祭に重点が置か



「Nourah with Jyoti」マサラ上映

れています。

今回は、昨年10月5日にインド独自の上映システム「マサラ上映」を実施したといえます。担当者は、「鑑賞者が映画シーンに合わせ歌や踊りで盛り上がり、通常の映画館では考えられない企画。それが好評の理由ではないか。これからは市民の声を聞きながら、更に魅力あるしんゆり映画祭にしていきたい」と「しんゆり映画祭」に寄せる熱い思いを語ってくれました。

■問合せ: NPO法人KAWASAKIアーツ映画祭事務局 TEL 044-953-7652

今後さらに「映像のまち・かわさき」が広がるように...

川崎市には、川崎区「チネチッタ、TOHOシネマ」・幸区「109シネマズ川崎」・麻生区「イオンシネマ」や麻生区にある日本映画大学など多くの映像関連施設があります。また、ロケが盛んに行われているまちでもあります。

2008年に始まった「映像のまち・かわさき」の取り組みは、こうした市内の豊富な映像資源を活用し、関連団体のネットワークの形成や人材教育、映像文化の振興、映像産業の発展などを目指すものです。担当者は、「今後さらに「映像のまち・かわさき」が広がるように関連団体と連携し情報発信を続けていきたい」と熱心に語ります。今回、取り組みの全てを紹介できませんでしたが詳しくは、各問合せ先にお尋ねください。

施設めぐり

市内公的施設および当財団が運営管理する施設の紹介

川崎市港湾振興会館(川崎マリエン)

JR川崎駅東口下車11.12番乗り場市バス川05系統
「川崎マリエン前」下車2分 Tel 044-287-6000



川崎マリエン

- ◆利用時間
9:00～21:00
- ◆開館日
12/29～1/3を除く毎日

川崎マリエンは、正式名称を川崎市港湾振興会館といい、公益社団法人川崎港振興協会が管理運営している会館です。市民と川崎港の交流を深めるため川崎市によって作られたコミュニティー施設の愛称です。地上51mにある展望室からの風景は絶景であり、案内タッチパネルやジオラマが設置されています。展望室の1階下の9階にはスカイレストランがあり、眺望も楽しむことができます。

【主な施設】

- 会議室7・和室1
- 研修室2
- 体育室
- マリエンシアター
- トレーニング室
- バーベキュー場
- ビーチコート

○川崎の海苔づくり資料室



○友好港ベトナム・
ダナン港交流館
(2階)

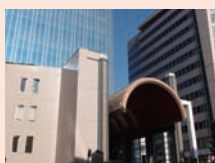


○コミュニティーホールには、京浜運河に迷い込んできた巨大なサメ体長4.8mのホオージロザメの剥製を展示しています。



川崎市立川崎図書館

JR「川崎駅」東口・京浜急行「京急川崎駅」徒歩4分
Tel.044-200-7011



川崎市立川崎図書館は、平成7年4月に開館しました。JR川崎駅東口の多摩川寄り、22階建ての「川崎駅前タワー・リパーク」4階にあります。



蔵書総数183,184点(昨年度末、CDを)、うち37,465点は児童図書です。年間の貸出数は約61万点。年間約1万点の新しい図書等を受け入れています。催しとして、毎月第1～4水曜日・午後3時～3時30分に、子ども向けのおはなし会をボランティアグループや職員により実施しています。

本館の特色は、英語やハンゲル、中国語の外国語図書約5,300冊を所蔵している事です。また、CDはクラシックから落語まで、幅広いジャンルで約5,400点を所蔵し、さらに雑誌も現在162誌を受け入れています。



平日午後5時から7時までの間は、多くの勤め帰りの方々に利用されています。川崎市立川崎図書館は、バラエティに富んだ蔵書でご利用をお待ちしています。

川崎市子ども夢パーク

JR南武線津田山駅下車徒歩5分 Tel 044-811-2001



子ども夢パーク
10周年記念フェスタ

川崎市子ども夢パークは、「川崎市子どもの権利に関する条例」に基づき、それを具現化するための施設として2003年7月23日にオープンしました。

昨年(2013年)12月1日(日)に開催された、川崎市子どもの権利の日のつどい～子ども夢パーク10周年記念フェスタ～は、天気にも恵まれ、3,120人ものが集まり盛大に10周年を祝うことができました。



第1部の式典では、福田紀彦市長の挨拶をはじめ、夢パーク10年のあゆみを報告。第2部の新沢としひこさんと山野さと子さんが出演した記念コンサートは、一緒に歌ったり踊ったりと大盛り上がりでした。他にもビニールシートを張り合わせた巨大な風船のシーバルクや音楽ライブステージ、工作や焚き火、泥んこ遊びに水遊びなど、たくさんの歓声と笑顔いっぱいの日でした。夢パークは、いままでも、これからも、子どもたちの“やってみたい”を応援していきます!!



市内施設の各種取組と当財団が主催する講座等の案内

情報ポケット

東芝未来科学館

JR川崎駅西口下車川崎ラゾーナ地区徒歩1分
Tel. 044-549-2200



2.1 リニューアル
オープン

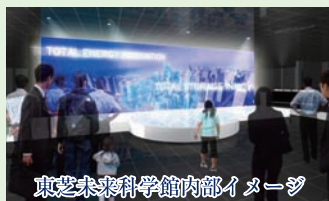
スマートコミュニティセンター

昭和36年に幸区小向地区に、52年間開館してきた東芝科学館が、川崎駅前のラゾーナ地区に移転し、平成26年2月1日に東芝未来科学館としてリニューアルオープンしました。アテンダントによる案内(日・英・中)のほか、一部展示では、タブレット端末のガイドシステムを導入しています。個人や家族での入館はもちろん、団体でのご来館もできます。

【展示】私たちの生活や社会を支えるシステムを中心に、東芝の技術を体験しながら知ることができる展示や創業者、歴代の製品が展示されています。また、科学の面白さを学べるサイエンスゾーンもあります。

【イベント】館内での企画展や実験・工作教室のほか、近隣施設でのイベント開催も予定しています。

【開館日時】火～金 10:00～18:00
土・日・祝祭日10:00～19:00
休館日は、月曜日及び当館の定める日



東芝未来科学館内部イメージ

多摩川交流センター

JR川崎駅西口北のりば車東急バス「反01」・市営バス川「73」系統御幸公園前下車徒歩3分
Tel. 044-555-2311

美しい多摩川を見ながら休憩や交流ができる「多摩川交流センター」が、昨年10月17日にオープンしました。この施設は、川崎市幸区古市場の多摩川堤防上にあり、散歩やジョギング、サイクリング等河川敷公園を利用する人々で賑わっています。



多摩川交流センター

多摩川を利用する人々を対象に利用者間の交流促進や河川利用の快適・利便性の向上を目的に完成し、「(公財)河川財団」が事業を行っています。また、スーパー堤防の上にあることから、地震災害時における緊急避難場所や救護、救援活動の拠点としても利用することができます。

施設の1階は、休憩スペースや水洗トイレ、シャワー(200円)、ソフトドリンクを販売しています。2階の屋上からは、多摩川の景観が望めます。

◆開館時間

【4月～10月】・7:00～19:00
【11月～3月】・7:30～17:30

◆休館日:第1・第3火曜日
と12月31日～1月2日



1階 休憩スペース



2階 屋上

川崎市生涯学習プラザ 平成26年度 第I期 陶芸教室 受講生募集のお知らせ

1.募集コース

○水曜コース 4月2日～7月9日(全12回)

- ①手びねりコース 9:30～12:30
- ②電動ろくろコース 13:30～16:30

●土曜コース 4月5日～7月19日(全12回)

- ①手びねりコース 9:30～12:30
- ②電動ろくろコース 13:30～16:30

2.会場 川崎市生涯学習プラザ地下実習室

3.内容 土(菊)練り、成形、削り、絵付け、釉かけ等

4.受講料 手びねりコース 32,400円
電動ろくろコース 38,500円



(受講料に含まれるもの:粘土代、彩葉代、焼成料等)

5.定員 手びねりコース15人 電動ろくろコース11人

6.申込み方法 往復ハガキに住所・氏名(ふりがな)・連絡先(電話番号)・希望コース(曜日とコース名)を明記のこと

7.申込み締切 3月15日(土)必着
〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1

8.問合せ (公財)川崎市生涯学習財団 事業推進室陶芸教室担当

Tel. 044-733-5893 fax 044-733-6697

※詳細の案内チラシは、2月中旬以降 各区市民館区役所、図書館にあります。



あとがき

■昨年、流行語特別賞に輝いた「楽天日本一おめでとう」は、まだ記憶に新しい。■楽天星野監督が試合後に話す選手一人ひとりへの評価は、とても具体的だ。だからこそ選手は、その評価を課題にして次の試合に臨むことができるのだろう。■およそ2500年前に「人を叱り、褒める時は、その理由を具体的に示しなさい。言われた人は、その理由を更に伸ばしていくだろう」と言った孔子の言葉と星野監督の選手への具体的な評価が、重なって見える。■小誌でも、今まで紹介してきた指導者が語る具体的な支援や指導(言葉かけ)が、多くの人材を育てているのであろう。



かわさき市民アカデミー

2014年度 前期受講生募集 のご案内

1993年に開学したかわさき市民アカデミーは、昨年20周年を迎えました。受講生・講師が共に学び合い、高め合い、助け合う学習機関として設立し、共に手をたずさえて歩んできました。21年目となる2014年度も27の講座、15のワークショップ、2つの短期集中講座、5つの地域協働講座を開設致します。幅広い分野からお好きな講座を選ぶことができます。

この春、新しい学びに挑戦してみませんか。

- 受講対象:18歳以上の方(市外の方も受講できます。)
- 受講料:2,160円~18,360円 ※講座・ワークショップによって異なります。
- 申込方法:FAX、郵送またはホームページから。
- 申込必要事項

- (1) 受講したい講座・ワークショップ名(複数受講可)
- (2) 名前(ふりがな)、生まれ年、郵便番号、住所、電話番号、FAX番号

※今年度の募集は「1年会員」「聴講生」の2種類。

■申込締切:会員・聴講生とも 2月14日(金)

■申込・問合せ:NPO法人かわさき市民アカデミー

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1 (生涯学習プラザ 3階)

FAX 044-722-5761 TEL 044-733-5590

ホームページ <http://npoacademy.jp>



平成26年4月採用 嘱託(非常勤)職員を公募します!

1. 募集内容 嘱託(非常勤)職員 若干名(男女問わず)
2. 業務内容 生涯学習事業、施設管理・運営、広報等の事務
※パソコン操作のできる方
3. 勤務場所 財団本部(生涯学習プラザ)または、指定管理施設
4. 勤務条件
 - (1)勤務形態:シフト勤務で週4日(土・日・休・祝日を含む)
 - (2)勤務時間:1日7時間15分(8:30~16:45を基本)
※月数回12:55~21:10の遅番勤務あり
 - (3)給与等:社会保険(健康保険・厚生年金・雇用保険)に加入
給与は月額17万円。通勤費相当額別途支給。
 - (4)雇用期間:平成26年4月1日~平成27年3月31日まで
※勤務成績により年度ごとに上限4回までの更新あり
 - (5)休 暇:「(公財)川崎市生涯学習財団嘱託職員就業規程」による。
5. 応募方法
財団ホームページの履歴書様式等をプリントアウトするか市販の履歴書に記載の上、写真を添付し、「川崎市生涯学習財団志望の動機」を800字以内で作文(表題・氏名を含む)し、平成26年2月12日(水)までに届くように持参、または郵送(2月10日の消印有効)してください。
※詳細につきましては財団ホームページをご覧ください。

<http://www.kpal.or.jp/>

◆問合せ先・応募書類提出先◆

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1 川崎市生涯学習プラザ
(公財)川崎市生涯学習財団総務室 職員採用担当

☎ 044-733-5560

財団メールマガジンKSJ Mail News

(公財)川崎市生涯学習財団では、生涯学習情報の提供を充実させるため財団のメールマガジン「KSJ Mail News」の配信を始めました。ホームページからお申し込みできます。(無料)



ホームページ「かわさきの生涯学習情報」の情報提供ページをリニューアルしました。川崎市内で開催される講座やイベントを、各月ごとジャンル別に掲載しています。ぜひご利用ください。また、掲載ご希望の施設及び川崎市関連団体の方は、ホームページから講座・イベント記入シートをダウンロードしてお申込ください。(無料)

財団ホームページ

「かわさきの生涯学習情報」

<http://www.kpal.or.jp/>

